

平成25年度「高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップ」開催報告

平成25年8月23日（金）
於・豊橋技術科学大学

<プログラム>

- | | |
|-------|---|
| 9:00 | 開会挨拶 岩熊まき理事
女性研究者研究活動支援事業の取組説明
(事業取組責任者 上田悦子教授) |
| 9:20 | 女性研究者交流支援システムについて説明
(事業取組責任者 上田悦子教授) |
| 9:40 | グループディスカッション
(高専女性教員のキャリア形成を支援する) |
| 11:10 | グループディスカッション成果発表 |
| 11:55 | 閉会 |

平成25年8月23日（金）の午前、全国高専教育フォーラム3日目に豊橋技術科学大学において「高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップ」を開催しました。このワークショップでは、今年度から運用を開始した「女性研究者交流支援システム」を実践的・体験的に活用しながら、高専女性教員のキャリア形成に関する現状や課題、支援策を協議しました。今回は午前の開催でしたが、約60名という昨年度の参加者数を大きく越える教職員の参加があり、女性研究者の研究環境改善に向けた取組への関心の高さがうかがえました。



また、当日の様子を交流支援システム内にてライブ動画配信を行い、会場外からのライブ動画の閲覧を可能としました。閲覧した教職員からのコメント投稿がタイムリーに反映され、会場内を大いに盛り上げていました。

開催にあたり、男女共同参画推進委員会委員長 岩熊まき理事より、女性、男性および管理職を含むたくさんの教職員の参加に謝辞が述べられ、昨今では女性の活用が大きく取り上げられていることや、高等教育機関としての学校運営において女性、男性のそれぞれの能力が適切に評価され、お互いの役割を認識し、果たしていく環境醸成が重要であることに言及され、このワークショップを通してライフイベントと両立しながら仕事をしていく女性のキャリアイメージをつかみ、今後の学校運営に活かしていくよう激励のお話がありました。続いて、女性研究者研究活動支援事業取組責任者の上田悦子先生（奈良工業高等専門学校教授）より、男女共同参画の取組、女性研究者交流支援システム操作及びワークショップの進行について説明がありました。



グループディスカッションでは、参加者を10グループに分けて討議を行いました。会場内外の参加者が各グループの討議内容を閲覧することができるようにと、各グループにパソコン1台を用意し、討議した内容を交流支援システム内に投稿しながら、グループ発表を行いました。



討議のテーマは「高専女性教員のキャリア形成を支援する」として、各グループで支援対象となる女性教職員モデルを想定し、そのモデルへのキャリア形成支援のニーズや支援策を討議する形で進行しました。グループ発表では、ライフイベントが一番多い時期とする30代から40代のモデルが多く想定され、「校務（特に、寮の宿直）と育児との両立」、「産休育休中の代替教員の確保、昇格への影響」、「ロールモデルがない」、「遠慮による制度活用申請の心苦しさ」、「女子学生対応などが女性教員に偏る傾向がある」の課題が挙げられ、それぞれの支援策を各校で取り組まれている制度や先輩女性教職員の事例をもとに提案意見がだされました。

最後に、矢野由美事務局次長より閉会の挨拶として、教育フォーラム最終日のお疲れの中での参加への謝辞と、実践的、創造的な技術者を育成する高専らしいワークショップが実施できたと述べられました。また、全国の女性教職員が学校を越えてのオンライン、オフラインの情報交換や共有ができるよう激励されるとともに、男女共同参画推進の取組は女性だけが対象ではなく、女性の課題一つ一つを検討すれば、男性教職員、事務職員、若手教職員のキャリア支援につながっていくとお話がありました。



実施後の参加者アンケートでは、回答者の89%が「ワークショップは有益だった」と回答されており、このワークショップを通じて、女性教職員が抱える問題について理解を深めると同時に、他高専の現状や経験談を共有し、また様々な制度の存在を認識するきっかけとなったという意見が多数ありました。